《資料》

１．研究会議事録

静岡市協働パイロット事業・研究会（第一回）議事録

＜概要＞
日時：平成 18 年 10 月 11 日(水)10 時 00 分～12 時 00 分
会場：ＳＯＨＯしずおか・サポートルーム
参加者： 佐藤、中間（ＮＰＯ法人静岡 PC サポートネットワーク）
小林（パソコンわかばくらぶ）

１．メンバー紹介
小林：本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。
またこの度は協働パイロット事業にご協力いただきありがとうございます。
市民生活課の協働パイロット事業として、採用していただいた。今回の目的は、点在している小学生向け情報モラル教育事業を一本化し（内容または仕組みは要検討）、静岡色を出していきたい。
今回参加するメンバーはＮＰＯ法人静岡ＰＣサポートネットワークの佐藤さん、中間さん、パソコンわかばくらぶの桜井、小林。ｅ－Ｌｕｎｃｈさんにも声を掛けたが辞退された。ぜひ参加して欲しいので、再度声掛けをする。パソコンわかばくらぶ・桜井は都合により今日は欠席させていただいた。
複数の団体と協働するプロジェクトだが、協働する団体候補はあるか？
中間：ＰＣネットさんではやっている。
小林：ＰＣネットさんはネットで教材を配布している。今回は教材開発が目的なので、声を掛けるのは控えた。他に静岡市内のＩＴ関連団体はあるか？しずおか創造ネットはどうか？少し目的が違う印象を持っているが。
中間：しずおか創造ネットさんは純粋にパソコンボランティアで少し違うような気がする。
小林：エイジングブライトさんは高齢者や障害者を対象にしていて、少し違う気がする。
子どもを守るような団体はどうだろうか？
中間：以前子ども向けのＮＰＯを捜したことがあるが、特別な子どもを対象にした団体が多かった。あと子どもと自然など限定されている。トータルで子どもを対象にしたという団体はなかったような気がする。
小林：ＰＴＡの団体などはどうか？
中間：校長先生が決定権を持っているので、ＰＴＡが絡んでも授業での実現は難しい。以前静岡市ＰＴＡ連合会に相談したことがあるが、その時はＰＴＡ単位で成果を積み上げて行くことを提案していただいた。その関係で今年度は横内小学校でＰＴＡを対象にした講座を実現した。ＰＴＡで実施する場合は、参加者が限定される。
小林：それが社会教育の現在の限界。参加しない保護者への働きかけや、それが難しい場

合は学校教育の中で刷り込む必要がある。だから今回協働パイロット事業で提案したのだが。

中間：放課後の、子どもの居場所作りを利用して、子どもを預かっている時間に情報教育に取り組んでみてはどうか。地元の高齢者も巻き込んだら面白いと思う。

２．会の目的

小林：今回提案した内容は「子どもをインターネットトラブルから守ろう～ルールとマナーをすべての小学生４年生に～」で、学校の授業として取り組んでもらう。問題点は協働市場で既に「ネット安全教室」が採用されているため、教材作りに比重をおく点。授業の一環としての実施は難しい。民間活力事業の枠で実施する予定。今年度は教材を作り、研究授業を２回程度実施、授業の必要性を提案して、次年度以降の事業化につなげるイメージ。

３．スケジュール

小林：スケジュールは今月、来月で教材作り、１２月に研究授業を実施して、１月に事業報告書を提出という予定。研究授業校は現在、教育委員会で声を掛けてくれているが、まだ決まっていない。

佐藤：西奈小学校の校長先生を知っている。

小林：ではその校長先生にお願いしてください。

中間：自転車と同じでインターネットでも各学校まんべんなく全てのこどもに「乗り方教室」を実施してほしい。例えば小学４年生にインターネット、小学６年生あるいは中学１年生でケータイについて学んでから利用するというような流れを作るべきだ。そうでなければ、必ず漏れができる。

小林：ぜひそれを目標にがんばりましょう。

小林：研究授業について。学校教育課との打ち合わせでは①１回、②４５分、③気づきや印象に残る授業を、という要望をいただいている。お互いに教材を出し合って次回から作成しましょう。いつもどのような内容？

中間：３時間から３時間半。前半は親子別々、後半は親子一緒に。親のいる前でチャットなどをやってもらった。最後に終了試験をやって終了証書を渡して終わる。「楽しいで終わらせていいのかな」という反省があった。子どもなので飽きさせないようにすると、そうなってしまう。

小林：子どもなのでその点が難しい。今回も５，６年生だったら結構しっかりしているが、４年生は子どもだと思う。わかばくらぶでは、２時間半から３時間、「我が家のパソコンルールを作ろう」を目的に親子で会話をしてもらった。最初に座学、掲示板の利用、チェックテスト、我が家のルール作りで終わり。４５分だと指導内容がかな

り限定される。

中間：複数回できるといいのだが。３時間あると、一通りのことができる。

小林：校長先生を知っているのであれば、交渉可能では？

佐藤：次年度であれば可能かもしれないが、今年度の授業では難しいだろう。

小林：次回は「４５分の中で何を指導するか」について検討したい。
各自考えてきて下さい。

静岡市協働パイロット事業・研究会（第二回）議事録

＜概要＞
日時：平成18年10月25日(水)10時00分～12時00分
会場：ＳＯＨＯしずおか・サポートルーム
参加者：佐藤、中間（ＮＰＯ法人静岡PCサポートネットワーク）
　　小林、桜井（パソコンわかばくらぶ）

＜議題＞
１．連絡事項
①ｅ－Ｌｕｎｃｈさん参加：研究授業のみ参加
②研究授業実施校決定
　実施校：静岡市立西奈小学校４年生４学級
　日　程：１２月４日(月)、７日(木)、８日(金)、１２日(火)、１４日(木)の中で２日
③謝金について確認

２．教材案の検討
桜井：情報モラル教育に何が必要かを考えた時に、親子向け、親向け、子ども向けに分けることができる。子ども向けはインターネットをこれから利用しようとする場合の注意事項。家庭内のルールを子どもだけで作っても、保護者との意識のズレが生じる。親子で話し合うから意味がある。子どもの実情が理解できる。親子向けでは子どもを守るための方法、トラブルに巻き込まれた時の対処法が考える。
　研究授業では、インターネットを始めるにあたっての注意事項。しかし、小学４年生のレベルがよくわからない。教材の洗い出しをした際も、５・６年生が対象である。３・４年生はパソコンの習得が主で、パソコンを利用して情報を発信するに至っていない。本当に初歩の初歩。これから利用するにあたって学んでおいた方がよいことを今回の研究授業で扱えるとよい。
　では、その中で何が必要か。情報を見抜く目。取捨選択、信憑性、個人情報の流出など。情報の取り扱いについて取り上げたい。あらかじめ用意したホームページでどういう所が間違っているかを指摘させる、考えさせるとか。だが、いきなり見せて返ってくる子どもの反応が疑問。皆さんの意見を聞きながら検討したい。
　子どもたちにパソコンを触らせると、それに時間を取られてしまって内容がなくなる。パソコンの操作はなしにしたい。授業そのものにもパソコンの操作はなくていいかと。皆さんのご意見を聞きたい。
小林：中間さんは今回の授業で何を中心にと考えていますか？

中間：４５分では打てる手が限られている。学校の授業でどんなことをやっているのかがわからない。内容が同じになってしまってもまずい。

佐藤：子どもたちがどの程度使えるのかによるのでは。

桜井：アンケートは取れないのか？

小林：アンケートは取りたいとお願いしたが、学校はアンケートを取る機会が多いそうで、「極力そういうことはなし」でとお願いされた。

佐藤：今、どのレベルにあるかがわからないと。

桜井：どの程度使っているかを明らかにしないと、既にやっているかもしれないし。

中間：学校によって違う。

小林：地域によっても違うかも。

中間：家庭内でも家族構成（兄弟の有無など）によっても違う。

小林：たぶんレベルには幅があるだろう。今回は西奈小で研究授業を実施するが、それを一般的と解釈してよいのか。

佐藤：授業をやる際は学校のレベルを調べないと。

中間：下調べとして、学校のレベルを調べる必要がある。

小林：本当はアンケートを実施できるといいが、実施は難しいと思う。

佐藤：学校によって差があるから様子を聞いてみるとよい。アンケートに協力してくれるかどうかも。

桜井：現状を把握しなくては進まない。

小林；アンケートをお願いしたいのはやまやまだが。

佐藤：ズレが生じてつまらないと思われるかも。

桜井：それでは事業が続かなくなってしまう。

小林：県の教材で「小学４年生レベルは？」と質問したら、「先生が必要な時に必要な形で指導する」と回答された。カリキュラムがないのが実情だ。

中間：先生に依存する部分が大きい。算数や国語と違って科目でもないし。

桜井：そういう教育課程だから仕方がない。現状の範囲内でやるしかない。ただ西奈小のレベルを知りたい。最初から失敗をしたくないから。先生に聞けばよいのかも。

小林：校長先生が了解してくれれば可能かも。担任の先生に聞くだけだったら。それがわからないと何も始まらないか？

佐藤：座学にするとか、どうするか程度は決められる。

小林：授業は４５分でお願いしたい。

佐藤：パソコン操作はなしでいいのか？座学だと飽きないか？

桜井：この際、パソコン使用は捨てて、自分たちの手や頭を使いながら、パズル形式でホームページを作らせてはどうか？項目は決まっているので、当てはめてもらう感じ。誤っているものも、盛り込みながら対話しながら引き出す感じ。ただホームページを見せて間違いを探すのでは動きがない。

中間：小学４年生は微妙。ローマ字を習ったぐらい。

桜井：打ち込むのは絶対にやめた方がよい。パソコンを使うと、子どもの神経がそちらに行って話を聞かないだろう。

中間：学校の道徳の授業ではどういったことをやっているのだろう。ネットの世界でも現実の世界の道徳やモラルがわかっていれば、本当は子どもでも大人でも判断できる。ネチケットも何を利用しているか（ツール）の違い。小学４年生レベルでどの程度判断できるのかを知りたい。そのことを見誤ると、授業を理解してもらえないから。道徳との歩調を合わせていかないと。現実とネットのどっちかが先に進んでしまうのはよくない。

佐藤：学校に聞きにいきましょうか。

小林：学校の先生に話を聞きに行けば情報教育の現状や道徳の授業についても把握できる。そこをクリアして先に進みましょう。

授業のイメージは？座学？能動的にゲームのように進める？楽しませればいいのか？怖がらせた方がいいのか？

中間：本当は両方体験させた方がいいのだが、４５分だといずれか一方しか出来ないだろう。例えば、テスト形式で質問を投げかけていくとか。そして答えと理由を聞く。講師が受け答えを用意しておく必要がある。やる方のリスクが高い。

小林：教育委員会の方のイメージに近い。ただ講師の技量が求められる。

桜井：それだと、誰がやっても同じにはならない。教材ではなく、人に依存する形になってしまう。

小林：受け答えをマニュアル化できるか？

中間：そう言ったら、どの授業も同じではないか。算数などでも同じことをやっても先生によって違う。マニュアル化するのではれば、実験を繰り返し教材に反映させていかなければ。先ほどの素材を用意して、何かを作らせるのがいいかも。子どもがどういう反応を返して来るかがわからない。講師にもよるし、普段から子どもに慣れ親しんでいる人がいい。

桜井：私もその点は不安。小学生には接していないので。

小林：先生方はいつも子どもを見ているから様子がわかるが、私たちは初対面で児童の性質や様子がよくわからない。作業をする時はグループワーク？

桜井：グループにすると考えない子もいるので、個人作業で。自分の考えでやらせないと。

小林：パソコンは使わせない方向で。普通教室を利用する。次回の打ち合わせは西奈小学校で。教材は、質問を投げかけて気づかせる、何かを作らせながら考えさせる、の両方を組み合わせた感じで。最初の１０分で何かを作らせて、残りの３０分で質問をして考えさてみてはどうか。

佐藤：ホームページを知っているのだろうか。

桜井：「ホームページって何ですか？」と聞かれたら、そこでストップする。ホームページ

を知らない場合は、代替（お知らせ）を利用する。ホームページにこだわる必要はなく、情報を発信することに力点を。

中間：学級新聞ではどうか？誰かに見せることを想定し、個人情報などを用意して「これを入れて貼る場所」を考える。例えば、家の中なのか、教室なのか、廊下なのか、体育館なのか、校外など。より多くの人に見られるときにこういう中身を見せていいのかを実社会の中で気づかせて、イコール、ネット社会でも同じだよと対比させる。ネットではもっと多くの人が見られるとすれば、ホームページを知らなくても入っていけるかも。

桜井：個人情報や著作権を盛り込める。最後にネットと結び付ければ。まとめで触れればよい。

佐藤：盛り込みたい項目が全て入れられる。テーマを変えれば、色々なことに応用できる。

中間：教材になりやすい。

桜井：もしかしたら、既に利用している先生がいるかも。

小林：教材は学級新聞を利用する方向で。あとは西奈小学校との打ち合わせの後で検討しましょう。

３．次回打ち合わせ

日程：未定

会場：静岡市立西奈小学校

静岡市協働パイロット事業・西奈打ち合わせ議事録

＜概要＞

日時：平成18年11月16日(木)11時30分～12時20分

会場：静岡市西奈小学校

参加者：笠井校長先生、田中先生（西奈小学校）

宮城島、青木（静岡市）

佐藤、中間（ＮＰＯ法人静岡PCサポートネットーワーク）

桜井、小林（パソコンわかばくらぶ）

＜議題＞

１．協働パイロット事業の趣旨説明

①教材について

「学級新聞」を題材に、情報発信の仕方や注意事項について学ぶ。

【上記を題材にした理由】

・パソコン操作をするには時間が足りない

・インターネットに接していない可能性がある

（インターネットやホームページといってもピンとこないかもしれない）

・彼らにわかりやすい、身近なテーマで

・目的は情報モラル（情報の独り歩き）について学ぶこと

・ネットはリアルの延長上にあり、ホームページは紙媒体の発展形

【課題】

・授業タイトル

インターネットとの関連性に乏しく、

当初のタイトル（インターネット～）との齟齬がある。

無理に結びつけると児童が混乱する可能性がある。

２．授業運営の分担

・はじまりのあいさつ　→　担任

・授業　→　講師２名

・終わりのあいさつ　→　担任

３．教材作成

①作成にあたっての確認事項

（質問１）

学級新聞を利用した授業はあるか？

（回答１）

情報教育の教材としては新しいのではないだろうか。

国語や社会の授業の中では利用することがある。

（但し、校長先生の知る限り）

（質問２）

情報モラルはネットに限ったことではない。

道徳ではどういった内容を指導しているか？

（回答２）

著作権、肖像権、個人情報といったことは指導していない。

礼儀なども特に道徳では指導していない。

指導は主に「心の内面」について。

例えば、「つらいことがあったら？」「悪いことをしてしまったら？」

ただ「こうしてはいけない」という結論は出さない。

問いかけをして、子どもに考えさせる形。

（質問３）

児童の情報教育レベルはどうですか？

インターネットの利用状況など。

（回答３）

家ではほとんど利用していないと思う。

マウス操作はできるが、文字入力にやや難あり。

５～６年生でもネット検索が難しい。

（地域間格差があるかもしれない。）

静岡市協働パイロット事業・研究会（第三回）議事録

＜概要＞

日時：平成18年11月30日(木)10時00分～12時15分

会場：ＳＯＨＯしずおか・サポートルーム

参加者：宮城島、青木（静岡市市民生活課）

佐藤、中間（ＮＰＯ法人静岡PCサポートネットワーク）

小林、桜井（パソコンわかばくらぶ）

＜議題＞

１．連絡事項

①研究授業の日程

②今後のスケジュールの確認

２．教材案の検討

小　林：今日の検討課題は新聞記事の内容と展開。

桜　井：小学校での打ち合わせと学級新聞の例から。見た印象では当初イメージしていた穴埋めは難しい。記事の一部に個人情報の所を貼ってもらうというようなことが出来るかもしれないが少々難しい。ネットの話はひとまず置いておいて、「書いたことを人が見ることによって広がっていってしまうことがあるよ」ということを理解してもらえれば。内容は、①書いていいことと書いて悪いことに気づく、②新聞を貼る場所によって見る人が違うことに気づく。授業展開例は導入部分で人の悪口について設問を設け、話すことと書くことの違いに触れる。その後、学級新聞の話題に移して学級新聞に書いていいこと、悪いことを考えさせる。

児童に選ばせることより、書いていいことか悪いことかを考える。貼る場所を教室内、廊下、校内、校外によってどう変わるか、多くの人が知ってしまうことに気づく。

記事は１パターンがいいか、違う２パターンがいいか。

貼る場所と内容ついて考えさせる。それを講師が児童に聞きながら、児童に考えさせる。

最後に今日学んだ内容の確認をする。

小　林：いつくか記事を用意する？

桜　井：貼られたら不快に思う記事を検討する。そうすると、いいことと悪いことが対比できる。何がいいのか？と考えると難しい。

小　林：授業の結論は出さなくてよいだろう。考えることに意義がある。

桜　井：「答えはこれだよ」という風には出来ない。まず内容は何がよいのか。

宮城島：４つの記事を入れるのか？

桜　井：気が散るし、時間も限られているので、２つくらいか。どういう反応が児童から来るのか予想も出来ない。子どもだけの授業はやったことがないので少々不安も。何かアイデアはありませんか？

宮城島：ネットでのトラブルを応用すれば？

桜　井：そうすると、掲示板や悪口か。

宮城島：一番最初に提案のあった内容を参考に４年生用の学級新聞にしてみたら？

中　間：その状況を匂わせるような必要があるかも。アナログとデジタルの違いはあっても、それを想像させる、つながるようなものを。４５分の壁がある。

桜　井：掲示板やチャットは仲間内だったものが徐々に広がっていく。交換日記に書くようなことがエスカレートしていく。例えば悪口とか。

中　間：これ（人の顔をヘンな顔とか言うの）は？先生の住所をに関する記事とか。こういうのを少し変えると、相手を傷つけそう。似たような記事で対比させるのがよい。

桜　井：「こちらはよくてこちらはダメだ」ということがはっきりした方がよい。内容が全く変わると、ぼやける。

佐　藤：記事の表現はちょっとした言葉遣い。

桜　井：そこが微妙なところ。書き方がひとつ違うだけで違うことを教えたい。

中　間：それか、悪い例を出して、それをどう修正したらよいかを考えてもらう。３パターン（①掲載してよいかどうか、②対比させる、③修正させる）ではどうか？

桜　井：時間的にどうだろうか。

宮城島：子どもとのコミュニケーションをどうするのか。ツールを工夫をしないと。講師の技量にも左右される。

桜　井：誰がやってもよいようなレジュメを作成しなければ。

宮城島：大人のワークショップで使うツールとして、全員参加させるためにカード（五択）を挙げさせる。

桜　井：記事の内容は「ヘンな顔」の記事を少し変えて比較させようか。

中　間：身体的なことが一番不快でよく言いたがる。ここまではいいが、これを使ってしまうと…ということが言えるとよい。

桜　井：そのレベルは個人差がある。また受け取る側によって違う。

小　林：万人が見て、その表現はよくないというものにしなくては？

佐　藤：人間関係にもよる。

宮城島：書かれた時はいいが、その後のコミュニケーションで受け手が過敏に反応するかもしれない。

この話はここにいるメンバーはプロではないので難しい。話を戻して、ネットの

トラブルから記事の例を持ってくる方がよいのでは。

中　間：個人情報は？記事に個人情報をつけ、考えさせるとか。

宮城島：新聞と交換日記を対比させて、その後話をネットに話を広げるとか。

桜　井：掲示板は当事者意識を持つが、新聞ではその意識が薄い。誰にでもわかるように、はっきりわかるように。と考えると難しい。授業の流れもどうしたら自然か。

パソコンを利用して実際に見せるとわかりやすいかも。プロジェクターでもいいので、視覚的に見せると「そういうことか」とピンと来るかも。

いずれにしても内容を決めないと。

一つ目は交換日記でも書きそうなこと、二つ目は個人情報に関すること、あともう一つ何か記事を用意して貼り付けさせる。前に模造紙を作って新聞を用意し、支持の多かった記事を貼ってもらう。出来上がりを考えさせるのか、１つ１つの記事について考えさせるか。

レジュメは細かく作らないと。

小　林：どういった時に個人情報を載せるのか？

桜　井：「引越しました」とか。「先生に年賀状を出そう」という時とか。

中　間：それは新聞になりやすい。写真もよい。承諾を得ているものとそうでないものとか。

小　林：子どもに理解できるだろうか？

中　間：理解できないからこそ、教えなくては。

宮城島：住所の記事だが。あらかじめ住所の所は抜いておいて、後で児童の名前を入れる。ギャラリーにも資料を配布して、誰かにおじさん役で登場してもらい「おじさんも〇〇〇ちゃん家に遊びに行こうかな」と登場するとか？こういうことを載せると、こういうことになるという疑似体験させるとよい。

佐　藤：子どもはなぜ個人情報を出してはいけないのか、わからない。

小　林：低学年の道徳の授業で「電話の応対」で個人情報を言ってはいけないことを学んでいる。

宮城島：本当は意味から入るのがいいが、低学年ではまだ理由を理解できないので、行動を制御させるしかない。

佐　藤：「なぜいけないのか」を明確にした方がよい。

桜　井：３つくらい記事を用意して、いいものと悪いものを２つずつ用意する。そして貼る場所（教室または校外）ごとに選ばせる。なぜそれを選んだのかを発表してもらう。貼ったらどうなるかなど。

中　間：設定をはっきりを決めておいた方がよい。例えば、教室はクラスの人、外は誰が見るかわからないなど。定義づけさせてあげれば、選択しやすくなる。記事の、交換日記で書きそうなことは掲示板につながるので盛り込みたい。

桜　井：学級新聞だが、ネット的な要素も欲しい。

小　林：学級新聞は一方向で、交換日記やネットは双方向。何らかの双方向コミュニケーションのできる場がないと、話が膨らまない。

宮城島：掲示板のトラブルで代表的なものは？

中　間：個人情報の流出や誹謗中傷。

桜　井：交換日記と学級新聞を対比させた方がよいか。

中　間：交換日記のような閉鎖的な中でのやり取りがネットでは色々な人に見られるという意識がない。その辺りのことを教えられるとよい。

宮城島：長崎の事件はどうだったか？

中　間：誹謗中傷だった。掲示板はやっているうちに互いに教え合って見る人数が増える。しかも知っている人の中で。

桜　井：知っている不特定なので、トラブルが起きやすい。

中　間：今回は４５分の制約があるからこういう形になったが、何を一番伝えたかったというと、非対面性によるコミュニケーションの遣いである。例えば、リアルの世界では相手の表情を見ながら、言葉を発する。

　しかしながら、掲示板ではストレートに文字情報だけである。その違いを子どもたちに教えたい。

　言葉のニュアンスになると、国語の勉強になってしまう。

宮城島：コミュニケーションに絞ってしまって、悪口にしてしまうとか。

小　林：教材として悪口というのはどうか。

桜　井：どの程度ならば許容されるのかがわからない。

宮城島：掲示板で起こりやすいトラブルからピックアップしてみてはどうか。

小　林：内容は限られた人が見るものと、誰もが見られるものの記事をいくつか用意し、どっちに貼るかを検討させる、でよいか？

桜　井：「貼らない」という選択肢があってもよいのでは？答えを明確にさせられないこともあるので。

小　林；記事は３つ。一つは個人情報、二つ目は悪口、あと一つは？

中　間：なりすましとか。別人格になることが、ネット中毒になる一因だったりする。

桜　井：学級新聞では特定されているので、難しい。

中　間：記事の最後に名前を記入させるとか。匿名性について意識させられるかもしれない。

桜　井：同じ内容を表現を変えて、比較できるような記事があるといいが。

中　間：冒頭に実施するアンケートを利用したらどうか。最初は無記名で書かせて、最後に名前を記入してもらうとか。

桜　井：ドッキリして気づきにはなるが、「なぜそうなったのか」「なぜそうしてもらったか」を伝えないと。ドッキリして終わりかも。

小林：授業展開の確認。子どもに記事を選んでもらって、前の模造紙に講師が貼る。あと

はまとめをどうするか？

桜　井：「インターネットは新聞よりももっと多くの人が見る」を教える。今日は学級新聞でこういう人が見るねと決めてやったけど、ホームページではもっと多くの人が見るよとつなげる。

ドッキリの部分も伝えたい。ネットの世界では名前を書かないので、アンケートと同じようなことがある。かつもっと多くの人に見せていることを伝えたい。

小　林：紙芝居ではないが、学級新聞をはずすとパソコンが出てきて、その画面に記事がある。そういうイメージでインターネットを伝えてみてはどうか。

宮城島：次回の打ち合わせで一通りやってみてはどうか。誰が見るかは子どもたちに考えさせる。そこを意識させることが大切。そうすると、インターネットでは、そこに挙げられた全ての人が入っているのをわからせることができる。

小　林：進行上のことだが。手を挙げさせたらよいのか、モノを揚げさせた方がよいか。

宮城島：一斉に挙げさせる利点は、周りの意見に惑わされず自分の意見を言える点。カラーの利点は、全体の傾向を一発で確認できる点にある。

小　林：カードを揚げてもらうのがよい。記事の部分は？

桜　井：各児童で作業をさせる。記事は貼り付けるのではなく、置かせる。

３．講師の分担

７日(木)：第２時(9:35～10:20)－桜井

第３時(10:35～11:20)－中間（妻）

１２日(火)：第２時(9:35～10:20)－要検討

第３時(10:35～11:20)－中間（妻）

※７（木）は順番の変更有り

４．授業のタイトル

教材と展開の様子で検討

５．その他

①メディアへの働き掛け

②研究授業の見学者

６．次回の打ち合わせ

日時：12/4(月)13：00～14：00

会場：SOHO しずおか・サポートルーム

静岡市協働パイロット事業・研究会（第四回）議事録

＜概要＞
日時：平成18年12月4日(月)13時00分～14時30分
会場：ＳＯＨＯしずおか・サポートルーム
参加者：宮城島、青木（静岡市市民生活課）
　　佐藤、中間（ＮＰＯ法人静岡PCサポートネットワーク）
　　小林、桜井（パソコンわかばくらぶ）

＜議題＞
１．修正点の報告
・教材の本数　３本　→　２本（内予備１本）
・導入部分の変更

２．展開例に沿っての実践
【事前の準備】
1)掲示用資料の貼付
2)資料の配布
〔留意点〕
・配布資料の確認は不要（後で講師が行う）
3)講師の紹介
・名前
・日頃の活動内容（紹介文の作成は小林）

①課題をつかむ
・配布物の確認
・カードの使い方を練習
＜発問＞
「インターネットをやったことがありますか？」
ある→赤いカード　ない→青いカード

②解決の計画を立てる
1)児童の回答は黒板の余白に記入

③解決する（実行する）

＜準備するもの＞
・記事に番号を明記する
・記事は２つずつ用意する

④検討する（発表する）
・児童の回答では抑えたい指導ポイントを明記しておく
そして、そのポイントが得られなかった場合は講師が児童から回答を引き出す。

【要検討】
・記事の選択と理由の発表の流れ

⑤まとめ
・インターネットに関する説明はどうする？

３．授業のタイトル
教材と展開の様子で検討

４．その他
①記事の物理的な形（切り抜きやすい形に）

研究授業（第一回）反省会議事録

＜概要＞

日時：平成18年12月7日(木)11時00分～12時10分

会場：西奈小学校応接室

参加者：笠井校長先生、靭矢(ウツボヤ)先生

宮城島、青木（静岡市）

佐藤、中間（ＮＰＯ法人静岡PCサポートネットーワーク）

松田（ＮＰＯ法人e-Lunch）

桜井、小林（パソコンわかばくらぶ）

１．感想

靭矢先生：講師の口調、流れははっきりしていてとてもよかった。反面、何か流れたかがはっきりとしなかった。それは使った弊害がわからないからではないか。「使い方によっては武器になる」というインパクトがなかった。

また小学校４年生はインターネットを利用しても情報を発信するまでになっていないので、使い方とは言っても溝がある。その為、そこは埋まらないような感じがした。それにそこまで入れると４５分では難しい。

学級新聞が外に行くというイメージがしにくかった。「家庭にいくこと」なのかなと解釈した。設定が唐突な感じがした。

佐　　藤：児童の様子はいつもと比べてどうか？

靭矢先生：いつもと同じ様子。

インターネットのルールとマナーは交通ルールと同じだと思う。分かっているけど守れない。もっと具体的に、ストレートに使える例を見せるといい。

松　　田：カードがうまく機能していたが、記事の選択場面では混乱する児童がいた。記事そのものを挙げさせるといい。校外はイメージしにくい。具体的な例（○○スーパーの前など）を言ってあげるといい。もっと言えばネットにしてもいいかも。ただ、その場合は対象学年を上げた方がよい。教材はよかった。テーマを変えれば、応用が利く。“たっくん”のところでは仮名だからというような意見があったので、ニックネームの意味を考えさせてもよかったかも。

宮 城 島：インパクトの部分は、知らないおじさんに声を掛けられるとかはどうか。
黒板の使い方を工夫した方がよい。

佐　　藤：今日伝えたいことが伝わったのだろうか？はっきりさせなかったことがよかったか？すっきりしなかった。

靭矢先生：文章について。国語では小４レベルでは情報量の多い文章がよい文章と理解する。情報を加減できる段階にない。

松　　田：やはりインターネットのルールを伝えることが必要だ。

靭矢先生：子どもは雑だから、難しいと思う。自分に降りかからなければわからない。

中　　間：多数決で記事を選択させて終わりでいいのだろうか。はっきりしていないので、やりずらかった。子ども達が本当に無防備であることを感じた。より具体的に伝えたい。

静岡市協働パイロット事業・研究会（第五回）議事録

＜概要＞

日時：平成 18 年 12 月 27 日(水)10 時 00 分～12 時 00 分

会場：ＳＯＨＯしずおか・サポートルーム

参加者：宮城島、青木（静岡市市民生活課）

佐藤、中間（ＮＰＯ法人静岡 PC サポートネットワーク）

松田（ＮＰＯ法人 e-Lunch）

小林、桜井（パソコンわかばくらぶ）

＜議題＞

１．連絡事項

①パブリシティ

・静岡新聞（１２／１３掲載）

・読売新聞（１２／１７掲載）

②今後のスケジュール

１２／２７（水）　研究授業並びにパイロット事業の総括

１月　　報告書作成

２．教材並びに研究授業の反省

小　林：まず対象学年について。年齢の妥当性は？

中　間：対象年齢と教材はセットで考えるべき。中身によって対象学年が決まる。テーマとしては少し早すぎたかもしれない。ただ学校や教諭によって教育レベルが異なるので一概には言えない。

授業の採用・不採用も学校側の判断でその点も課題。

小　林：教材の記事にも課題を残した。もう少し情報を精査すべきで、今回の教材は小学校４年生の国語の能力ではどうだったのか。

宮城島：「テーマ」と「文章のあり方」が考えられるが、後者ですね。

小　林：小学校４年生の国語力で理解出来る文章に変えてあげればよいのか？スタッフアンケートで「教材のわかりやすさ」「難易度」にバラツキがある。その原因を探りたい。

中　間：回りくどく、インターネットに持っていこうとしたので、子どもがそこまで理解できたのだろうか？という評価になったと思う。授業の内容からインターネットへ結びついたか。パソコンを利用して直感で得られるようにする方がよいのでは。

ストレートに伝えられる。

桜　井：こちらが意図する答えとは違うものが返ってきた。例えば、読んだ時の気持ちとか。それは現場の先生に確認しないとわからないことだった。今回の西奈小学校ではパソコンの利用が出来ないからパソコンを利用した実施は難しい。パソコンの操作研修になってしまう可能性がある。

小　林：子どもたちは私たちが伝えたかったことを理解できたか。

佐　藤：「楽しい」という感想があったが、どの程度理解したかは子どもに聞かないとわからない。大人から見た印象では量れない。

中　間：「つまらなかった」の理由からすると、理解できなかったのでは。

佐　藤：インターネットという所まで言っていないような気がする。

桜　井：後で先生に確認してみたら？

佐　藤：子どもたちがインターネットと関連づけて聞いていたかどうか。

小　林：インターネットまでいかなくても情報発信をする時に個人情報を出してはいけないこと、なぜそれがいけないかをわかってもらえたか。

桜　井：情報の発信という意味で気をつけなければいけないということが残ってもらえれば。

中　間：ここに書いてある感想（個人情報を出してはいけないことがわかった）と同じ気持ちにどれだけの子どもがなったかだろう。

宮城島：子どもたちの行動がどれほど変わったのかと考えてみてはどうか。

桜　井：子どもたちのつぶやきがある時は気づきのある時。そういう授業は印象に残っていると思う。シーンとしているクラスもあったが、そうなってしまうと印象が残らないかも。よそ見をしているクラスもあった。

小　林：クラスによって違いがあった。

桜　井：授業に集中させる工夫が必要。２回目の２クラス目はすごく静かだった。授業に集中して、つぶやきがあれば成功では。

小　林：記事文面は再考の必要あり。

次に授業進行について。中間さんのクラスでは進行が早かった。カードを揚げるのが効果的で、全員を参加させることが出来た。

子どもたちに発表してもらう時に、必ず①の記事から発表させていたが、少数意見からの発表ととちらがいいのでろうか？圧倒的に①を揚げる子が多い時に①から答えさせたが、②を揚げた子どもが発表しにくそうに見えた。

桜　井：進行上、問題はなかったと思う。

宮城島：多数派の人でもっともらしい意見が出ると、少数派が言いにくくなることはある。

桜　井：状況によって。ケース・バイ・ケースで対応する。

小　林：２回とも中間さんの方が時間より早く終わってしまったが、どこが違ったのか？

桜　井：大きく違ったのは全員参加の徹底さ。私は全員のカードが揚がるまで待ったが、

中間さんは違った。一度呼びかけて、全員が揚がらなくても進めていた。そこが違うのでは。

佐　藤：子どもの手の挙がる度合いや発表の様子にもよる。

桜　井：子どもの性質にもよるかも。私が担当したクラスの子は元気だった。

宮城島：揚げていない子を揚げさせる以外に、揚げていない理由を尋ねる方法もある。

小　林：２回目で取り入れた「変なおじさん」の登場はどうだったか？子どもたちに受け入れられていたように思うが。

桜　井：前から登場した方がよかった。

松　田：対象学年では量れない。学校、担任、家庭によって違う。もう少し小学生の実態にあった設定を。色々なテーマを増やしていけば、ライブラリとして必要なテーマを学年を超えて利用してもらえるようになる。壁新聞は斬新なアイデアだったが、落とし所がインターネットであれば、最初からパソコンやインターネットを使わせる方がよい。環境が許されない場合は、壁新聞ではなく画面のコピーを見せて進める方がインターネットを意識づけられる。せっかく与えられた機会は有効に使った方がよい。

宮城島：必ずしも小学４年生でなければという点にこだわらなくてよいのでは。色々なテーマを用意して先生方に必要なテーマを選んでもらうのがよい。伝える内容、限られた機会、限られた機材を、バランスを考える必要性はある。

中　間：テーマを増やしてライブラリ化するのはよい意見だ。

小　林：今回は対象を小学４年生にして考えたので、テーマを主眼に置くとなると全面リニューアルしないと。それを明らかに出来ただけでも意義がある。

中　間：今回は色々な制約があった。例えば、対象学年が４年生、４５分授業、子どもの情報教育レベルなど。西奈小学校の４年生はほとんどパソコンを利用することが出来ない。だから今回はこのような教材になったのだが、色々な意見を聞いてそういうことではないことがわかったのだから、それはいいことだった。

宮城島：それはいいことだと思う。

松　田：これまでネット安全教室をやってきたが、ほとんど５・６年生。４年生を対象にしたこともあるが理解度が違った。

宮城島：授業を理解できる年齢とネットトラブルに巻き込まれる年齢は同じか？

松　田：そこまではわからないが、一番最初に呼ばれたのは小学５年生を対象にしたチャットや掲示板に関するトラブルのことだった。５年生になると使用回数も増える。山間部でも環境が充実している所もあり、（地域間格差について）一概に言えない。

中　間：効果を出すラインは小学５年生か？

松　田：むしろ家庭での利用が多いので、そちらの方に問題がある。

宮城島：チャットを使えるようになる時期をパソコンが使えるようになる時期と考えた時にその前に理解させるのは難しいか？

松　田：パソコンを使ってえいないのに理解させるのは難しい。“光と影”の部分があるが、私は光を先に教えたい。

宮城島：調べ学習よりも前にチャットの利用を禁止するのはどうか？どういう考え方で取り組むのか方針を決めないと。そうすると、提案する上で利用するタイミングを示しやすい。例えば、光なのか影なのか、立場を明確に。

松　田：調べ学習をマスターしたら、パソコンをやり出す。

宮城島：学年ではなくスキルで。

中　間：マナーやモラルはネットでもリアルでも変わらないと考えた一員だが、教育関係者がメンバーに入ってもらえるとよかった。

松　田：道徳の話になってしまうことがあった。現実に即した形にして欲しい。

宮城島：家庭に持って帰れる資料があったのはよかった。親子で考えるきっかけになる。

３．報告書（目次案）

Ⅰ．事業の目的

Ⅱ．教材（進行表を含む）

Ⅲ．今後の課題

Ⅳ．提案

（付録）

・研究会議事録

・研究授業の記録写真